

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長

(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和6年度病害虫発生予報第5号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

病害虫発生予報第5号

(予報期間：8月上旬～8月下旬)

予報内容

水 稻

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第3号（令和6年8月1日付）参照】

ツマグロヨコバイの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意する。

大 豆

紫斑病の発生は**やや多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

フタスジヒメハムシの発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

果 樹

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

ナシ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。【病害虫発生予察注意報第1号（令和6年5月16日）参照】

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。またネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

スイカつる枯病の発生は**多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。また、ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病の発生は**多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガ、ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

※ 農薬の使用に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

— 気 象 予 報 —

1 か月予報 (令和6年7月25日付け 新潟地方気象台)

予報期間 7月27日～8月26日

[確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	10%	高い	80%
降 水 量	少ない	20%	平年並	40%	多い	40%
日照時間	少ない	30%	平年並	30%	多い	40%

[概要]

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・期間のはじめは前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- ・7月27日(土)～8月2日(金)
前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・8月3日(土)～8月9日(金)
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・8月10日(土)～8月23日(金)
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比

注 2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

穂いもち

発生時期	8月以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 葉いもちの現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 本田への侵入虫数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底する。 (2) 高温乾燥時には水田への侵入が促進される。

セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

コブノメイガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 晩植や直播のほ場等では集中産卵による被害の発生が懸念される。 (2) ほ場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生に留意する。

2 大豆の病害虫

紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生は並 (±) (2) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

ハダニ類

発生時期	急増期は8月上旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並または多 (-)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 予察灯への誘殺数は多 (+) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

フタスジヒメハムシ

発生時期	発生盛期は8月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯への誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類（なし、りんご）

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量は平年並または多（-）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

4 野菜・花きの病害虫

疫病菌

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（-） (2) 降水量はほぼ平年並又は多い（+）
防除上の注意事項	(1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。 (2) ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（-） (3) 降水量はほぼ平年並又は多い（-）
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並又は多い（+）
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。 (2) ネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並又は多い（+）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (－)
(3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)

防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。
(2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並又は多い (+)

防除上の注意事項 (1) 降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期 連続発生
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少 (－)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並または多 (－)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アザミウマ類

発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや多 (+)
(2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ネギハモグリバエ

発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少 (－)
(2) 気温は高い (+)

防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハスモンヨトウ

発生時期	8月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	8月上旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢期の幼虫の防除を徹底する。